

令和3年度第1回乳幼児教育保育推進体制の充実・活用強化に関する懇談会 議事要旨

1 開催日時

令和3年6月30日（水） 午前9時30分～午前11時

2 開催場所

広島市役所北庁舎6階 教育委員室

3 出席者等

(1) 学識経験者・教育関係者・関係団体代表者

朝倉 淳【座長】 (安田女子大学 教育学部 児童教育学科 教授)
徳永 隆治 (安田女子大学 教育学部 児童教育学科 教授)
渡邊 英則 (認定子ども園 ゆうゆうのもり幼保園 園長) [欠席]
松尾 竜 (広島市私立保育協会 理事長)
米川 晃 (広島市私立幼稚園協会 理事長)
安藤 康子 (広島市保育園長会 代表)
坂本 玲子 (広島市立幼稚園長会 会長)
尼子 博崇 (広島市小学校長会 代表)

(2) 事務局 (広島市こども未来局・広島市教育委員会事務局)

保育企画課長、保育企画課調整担当課長、保育指導課保育園運営指導担当課長、
教育企画課長、指導第一課長、教育センターチーフ

4 議題（公開）

- (1) 令和3年度 乳幼児教育保育推進体制の充実・活用強化に関する懇談会について
- (2) 幼児教育・保育の質の向上に向けた「公開実践」について

5 傍聴人の人数

5名

6 懇談会資料名

- ・ 令和3年度乳幼児教育保育推進体制の充実・活用強化に関する懇談会について
(資料1)
- ・ 幼児教育・保育の質の向上に向けた「公開実践」について (資料2)

7 出席者の発言要旨

事務局の説明に対し、以下のような意見・質問等があった。

※1 ○は学識経験者・教育関係者・関係団体代表者、●は事務局職員の発言を表す。

※2 「乳幼児教育保育アドバイザー」は「アドバイザー」と表記している。

- ・ 幼稚園教諭・保育士等が、日々実践している教育・保育の内容についての相互理解を深めていくために、「公開実践」に必要な視点について
- 公開実践をする中で、幼稚園教諭・保育士等が、互いに日々実践している幼児教育・保育への理解を深めるためには、単に各園が普段の保育をそのまま公開するだけでなく、そ

の園の保育者にとっても、何らかの学びが起こっていることが望ましいのではないだろうか。そのため、公開する園がまたは保育者が、自分のやりたい保育をどう実現していくか、そのプロセスや保育の変化などがわかる公開実践であってほしい。公開実践を行う園の保育者が「やろうとしてもできない」と思っている保育をどう実現していくかなど、各園の課題や保育者の思いを大事に受け止めて、保育の資を探求していくような公開実践に向けた体制や予算があるとよいと思う。

このような流れができれば、公立園だけでなく、私立の幼稚園や保育園へと広げていくことも可能になっていくのではないかと期待する。

- 保育の質の向上や情報交換を進める上で、公開実践は極めて有効な取り組みだと考える。いかに充実させるかが今後の課題である。公開実践では、環境・施設・用具といった目に見えるものを学び取り、検討していくことも重要だと思うが、同時に目に見えないものを捉えることも重要である。

例えば、保育者が園児にどのように対応しているのか、どのような言葉掛けをしているのか、そのことによりどのように子どもが変わるのがいたことが、見えてくると思う。先生が園児に対して何を言っているのかではなく、何を意図して言っているのかを見て取ることが大事だと思う。

- 自分の所属する法人では毎年、各園で公開保育を行っているが、どうしても実施園の粗探しになってしまい面がある。そうではなく、園児の成長を促し、よい点をしっかり見る公開保育になってほしい。保育者が持っている課題、そういうところを公開実践の中で参加者が捉えることができたらよい。

子どもの学んでいる姿、過程、課題、感じていること、そういうところが見える公開実践であってほしいと思う。

- 私立幼稚園も毎年、公開保育を実施している。以前は1年間のテーマを決めて、著名な先生を招いて、いろいろなアドバイスをもらいながら、保育を見直し、研究発表の公開保育いう形で8区が持ち回りながら年1回、公開保育を実施していた。

しかし、この方法だと気軽に公開保育ができなかつた。このことから、5～6年前から仕組みを変えた。従来の研究発表の公開保育から趣を変えて、現在は各園が日々のありのままの保育を公開している。

各園が建学の精神に基づき、どのように保育に取り組んでいるのか、どのように保育環境を整備しているのか、園児がどのような動線で動いているのか、担任だけではなく、他の先生たちがどのように園児に関わっているのかを自由に見せてもらいたい。

それぞれのテーマが必要であると思うが、まず、公立保育園、幼稚園のありのままの保育を気軽に見せてもらいたい。公開実践も初回になるので、最初は気軽に見せるということが必要ではないかと考えている。

- 公開実践では2つの視点が重要だと考えている。園児が主体的に遊んでいるかという視点、園児が主体的となって遊ぶためにどのような環境を工夫されているのかという視点である。

まず、園児が主体的に遊んでいるかという視点については、公立保育園では、園児主体の保育が行えるように保育の質の向上に取り組んでいる。学び、園内の実践、学びの共有を繰り返す往還的な研修を行い、それぞれの園で取り組んでいる。日常的、継続的に子どもが主体的に遊んでいるのかという視点が大切だと思うが、この主体がずれてしまうことを懸念している。保育士の願いを園児に押し付けることで、園児の主体性が崩れたり、理想の保育の実現のために保育士主導になつたりしてしまうことも考えられる。日常的、継続的に行われている自園の保育を公開実践で客観的に見てもらい、保育について語り合いで、具体的に保育に生かすことができる意見をもらいたい。自園では当たり前になつてることを他園の保育士から聞くことで自園のよさを改めて確認することができる。園外の人に認めてもらうことで保育士の自信につながる。

次に、園児が主体的に遊ぶためにどのような環境が工夫されているのかという視点については、実態から園児の育ちや内面を理解することが必要で、園児が日々体験することが園児にとってどうなのかと考える。安全面での環境配慮、園庭時間の使い方、異年齢の園児同士の関わり、そういうところをどのように工夫されているのか、保育実践の中で語り合えたらよいと思う。

- 幼稚園教諭、保育士の日々行っている幼児教育・保育の相互理解を深めていく点について、公開実践は、たくさんの園が参加することで、興味深く貴重な場になると思う。幼稚園・保育園にはそれぞれ個性があり、立地が都会なのか、田舎なのか、職員の構成、子どもを育てる理念等それぞれ違うと思う。広島市の子どもたちを育てるチームなので、みんなで一つの方向を向いて子どもを育てる気持ちを共有したい。そのためには、相互理解が大切だと考える。公開実践を通して、お互いの園の違いに気づいて、自園の保育に活かせることができると思う。多くの参加者の多様な視点で振り返りを行うことができるのではないかと期待する。自園の背景を考慮した上で互いの園の違いに視点を当てつつ、自園のよさに気付き、いろいろな考え方を共有することで、あっとするような違いを認識できる。互いの園でよくあることに共感し、園のよいところを共有できる場になればよい。
1つ提案だが、ファシリテーターを導入し、皆さん 의견をコーディネートしてもらえば、気軽に話ができる、より充実したものになるのではないか。
- 公開実践は、他園を見て、知ることに大きな価値があるものと考える。保育園・幼稚園では仕組みが違うので、互いの違いに目が行きがちだと思うが、その園で大事にしている事という視点があると思う。学校で言えば、最近は、人との関わりが苦手な子が多く、幼稚園・保育園それぞれの園でどのような接し方をしているのか、参考になると思う。日々の保育でも、こうした子どもを見る視点では共通の話があると思う。また、公開実践を行う前に、実施園で大事にしていることを参加者に事前に提示しておけば、参加者の参観の視点が定まり、協議の充実が図られるのではないか。
- 公開実践を有意義なものと捉えている意見が多かったように思う。具体については、それぞれの園でこれから検討し、形になればよいと思う。粗を探すのではなく、園ごとに多様な背景があることを踏まえ、その園の保育を学んで欲しい。その際、ありのままを見ながら学び取っていくのが、望ましいのではないかという意見があった。こうした中でも、園児の主体性、人との関わりといった保育に共通するものは、ベースとして持ってもよいと思う。環境設定にしても、先生の言葉がけにしても、保育者の意図を理解することが大事なので、語り合いの場があればよいと思う。
- ある幼稚園で実際にあった話として、雨で園バスが渋滞に巻き込まれ、本来の公開保育の始まりの時間に間に合わなかつたことがあった。雨の日で遅れるということはよくあるが、その園では工夫し、上手に対応していたので、大変参考になった。幼稚園・保育園、仏教・キリスト教系の園、送迎の有無等、いろいろな園でありのままの保育を見せてもらうのもよいのではないか。
- 公立保育園でも、実践や学びの共有を公開保育で行っている。私立保育園にも参加してもらっている。その中で、公開保育の後に行う、語り合いの場がすごく大事だと思う。それぞれの職員が分からぬところを質問し合ったり、理解したりするための時間に意味がある。アドバイザーにも意見、感想をもらって、学びにつながっている。今後は、公開実践の後の語り合いの場をどのように進めていくか考えていきたい。

・ 「公開実践」を、幼稚園教諭・保育士等の資質・能力の向上の場として活用していくため留意すべき点について

○ 公開実践のテーマを、できるだけ保育者にとって身近なものにしていくことが大事である。「うちの園では無理」とか「園の文化が違うからあんな保育はできない」というような公開実践ではなく、「うちの園ならこんなことができそう」「私はこんな保育をしてみたい」というように、公開実践に来た保育者が、園に持ち帰って、各園、各保育者が「やってみたい」と思える流れを作っていく必要がある。散歩の仕方、食育、保育室の環境、自然との関わり等、どの園の保育者にも興味ある内容が、公開実践の場でも丁寧に伝わっていくような工夫があるとよい。

さらに言えば、いろいろな実践を通して、子どもの声を聞いて保育をどう組み立てていくか、子どもの姿ベースでどのように保育を行っていくかが明らかになり、小学校以上の教員にも、幼児期の教育の重要性が子どもの姿を通して伝わっていくような公開実践になっていくことを願っている。

○ 私自身も授業公開を行い、見てもらった経験があるが、やはり公開をするとなると構えてしまう。そういう意味では、日常的な普段の保育の状況を見てもらう、その考え方は大事だと思う。一方では、公開すると提案内容とは別の視点での批判的な発言を受けることや、逆に、「よかった」で終わってしまうこともある。これでは実際に公開した人にとっては何の役にも立たない。「よかった」という言葉は自信にはなるが、公開する側としては、自分たちの意図をもって公開しているので、それに対して何らかの意見を言ってもらいたい。提案の趣旨とは異なる点での批判的な発言となるのは、見る側はいろいろなところを吸収したいという思いがあるので、いろいろなところに目を向けてしまう。やはり、視点を絞って見てもらい、それについての意見を聞きたいということだと思う。

そういう点では、何を見てほしいのか、そして見る側もどこを見たいのかという視点を絞っておくことは大事である。資料2には意見交流したいポイント等を提示すると示されている。これは公開する側にとって大変かもしれないが、公開するからには、意図的な部分はあるので、そこをはっきりと示して、見る側もその視点に沿って、いろいろ考える、意見交流するということが大事なのではないか。

そういう点では、実施園はポイントを提示するということと、見る側は、例えば、観察カードのようなものを準備して視点をきちんと絞って、そこを中心を見ていくことが大事である。

○ 実施園も見学する園もお互いの敷居を下げる事が大切である。そのためには、従来は、公開保育をするとなると資料があり、園長の挨拶、本日の予定、テーマ、内容、それぞれの学年の日案と内容も膨大になっていた。資料を簡単なものにすることは、ある意味、敷居を下げることにつながるのではないか。日案だけでもよいと思う。

資料に「事前に公開前に意見交流したいポイント等を提示する」とあるように、公開保育のテーマをどのように考えるとよいか、どうするかということがある。例えば、各園、各区にある実施園ごとに決めるのも一つの方法である。あるいは統一テーマを決める。例えば、広島市の目指している子ども主体の保育というように共通テーマを決める。そのどちらもあり得る。

園ごとにテーマを決めれば、事前にポイントを提示する必要がある。各園の教育・保育のねらいや特徴、また、違った視点で内容を見る事ができるというよさがある。一方で、共通のテーマであれば、一つのねらい・テーマなのでそれぞれの園が互いに育ち合うことにつながり、また、自分たちのしている事が正しいのかという確認の場にもなる。テーマのねらいをどうするかということを考えるとよいのではないか。

○ 公開実践とは、日常保育の輪切りの場面を皆さんに見てもらい、それに対してお互いが研修し合うというところなので、それぞれの皆さんの公開に行く立ち位置を明確にしてお

くことが大切である。

その時の先生たちの声掛け、子どもの姿等を見てもらうので、よければ、ひと月ごとの子どもの成長や先生の変容、声掛けの様子等、それまでの過程を第三者であるアドバイザーに感想や意見を伝えてもらうこともよいのではないか。

8区の実施園9園・連携園6園があるが、今年度は、全て公開実践するのか、それとも限られた園のみが行うのか。

● 現在のところ、8区9園全てで行うことを検討している。

- 公開実践は、日常的、継続的に行っていいる保育を見てもらうというものだが、ここに至るまでは、保育園やそれぞれの施設は、教育課程や全体的な計画などを基に保育内容を考えており、その日に至るまでには、いろいろなドラマがある中で、子どもたちも、保育士も評価をしている。留意すべき点としては、公開実践後に、活動に至るまでの活動の流れなど、見えない部分を説明できる場を設けることが必要だと考える。

アドバイザーが説明したらよいのではないかという意見があつたが、実践した者が話し、協議が行われていくとよいと思う。

「よかったです」ということで終わらないようにという意見もあったが、基本はよいところを見つけ合う、そのことを中心にしながら、子どもの発達や保育士のかかわり、環境、素敵などころ、取り入れたいところを中心にして話をしていくところからスタートしていきたい。

幼稚園・保育園、認定こども園、いろいろな違いがあると思うが、共通のところを見つけていく、何を大切にしているかというところも共通だろう。それらを実現するために、それぞれの施設でどのような工夫をしているのかが保育のヒントになっていくのではないかと思うので、そのようなことを語ることができるとよい。

- 広島市幼児教育・保育ビジョンにおいても、公開実践のことについては、質の高い幼児教育、資質・能力の向上ということが随所に語られている。改めて、質の高い教育とはどのような教育なのかということを改めて考え直したり、先生方の意見を聞いたりしてみたところである。質の高い教育は、物的環境、人的環境が優れているというところもあるが、やはり、幼稚園教諭・保育士の援助、子どもを見る目、見取りということにつきるのではないか。保育に生かされるまでのプロセスを語ることができたり、次に生かしていくといつたりというような先生たちの力ではないか。そのためには、研修も必要だが、自分の保育を語り、次につなげていく、評価ということを考えていける保育者でありたいと思う。

そういう点で、今回の公開実践の場でも、振り返りの視点をもち、協議をすることがポイントではないか。今日の保育のねらい、活動内容、これまでの経緯等の話ができるとよいと思うが、例えば、「子どもが主体的に遊んでいたか」という視点をもった時に、事前にそれをもらつていれば、「主体的に子どもが遊ぶことはどういうことだろう」と自分で勉強すると思う。この視点をもつて公開保育の子どもたちの姿や先生の援助を見た時に、「自分は子どもの主体的をこう思っていたけれど、この先生はもしかすると、このように思っているのでは」と質問する材料になることや、「自分は主体的をこう思っているが、なぜこう思っているのか」などと、実際の子どもの姿を見て語ることができるとよい。

また、幼保小連携という視点からは、幼児期の終わりまでに育つほしい10の姿とどのようにつながっているのか、子どもたちは何を学んでいるのだろう、という視点をもつて公開保育に望むことが、より効果的になるのではないかと思う。

その後の協議については、いつもの園内研修プラス、みんなでいろいろと協議し合うためのコーディネーター、そこにアドバイザーの活用もできるのではないか。このような人がいると、より効果的だと思う。

- 園の様子を見せてもらうことも大切だが、その後の話し合いの場がどれだけ活用につながるかということだろう。小学校でも全国レベルから市レベルまでの公開研修会がある。大きな会ほど、準備は大変であり、その事業をすることが目的になりがちである。構え

ず、形式的にならない協議会でありたい。

参観される幼稚園・保育園の先生方も日常的に忙しい中での参加とはなろうが、公開実践の意義を一人一人が理解した上で参加することが大事である。その点を毎回大切にしながら会を重ねていくと充実するのではないか。

その協議は、感想もよいが、視点やテーマは必要になってくると思う。それぞれ園が公開するので、園として見て欲しいところ、協議してほしいところもあるだろう。市の施策ですることなので、市で目指す大きなテーマを示すことも必要になってくるだろう。

- 公開実践をした成果を、できるだけ市内に広げていくということだが、オンライン等で公開実践を公開することも計画しているのか。
- いろいろな方法は検討をしているが、一般に公開するとなるとプライバシーの問題などもあるので、そのようなことも見据えて内部で検討しているところである。
- 実施園は各区に1園となっており、市内の幼児教育・保育施設が対象となると、かなりの園数になるが、各区に1園で大丈夫なのか。それとも、人数制限があるのか。
- 今年度については、初年度であることや感染症拡大予防の観点から、開催規模を考えたい。次年度以降の開催については、例えば、回数を増やすなどの対応を検討したい。
- 実際に公開実践を行うに当たり、運営面で考慮しないといけない点がたくさんある。内容面でも考慮しないといけないこともあるよう思う。特に、テーマや視点について、どのようにそれを置くのか、緩やかにするのか。その瞬間や場の大切さがあり、子どもたちが育ってきたプロセスや、幼稚園教諭・保育士等も育ってきたプロセスがあり、いろいろな流れがあって、その時がある。そこをどのように、捉えたり、発信したり、理解したりするのか、そういう所も大事なことである。公開する側が疲れてしまっては、子どもの成長にマイナスかもしれない。公開してよかったです、参加してよかったですということが、子どもたちの成長につながるのではないかと感じている。